

信用することと頼ること

何につけ深い知識や経験をもった人を「専門家」とよび、私たちは日常生活の中で幾度となくお世話になっています。専門家を信用することはもちろん悪いことではありません。ただし、どんなに偉い先生であったとしても頼り切ってしまうとよくいかないことがあります。

例えば塾生諸君の場合、塾の指導などを一から十まで塾の言われるまま受け入れてしまうことが必ずしも自分のためになるとは限りません。志望校しかり、勉強法しかり、「頼る」ことで本来自分自身が持っているはずの意志力・判断力を徐々に萎えさせてしまうことがあるように思います。

もちろん塾講師としては「本人にとって良かれ」と思って指導等をしているので、言うことは守って欲しいのですが、「言われることだけを守っていれば志望校に行ける。」と勘違いされるのは本意ではありません。

ある塾から何名有名校に行こうとも、その塾に通うだけで志望校に合格するものではありません。たかが1週間に数時間の講義を受けただけで成績が良くなるはずはありません。結局はその講義をきっかけにして、「自分なりの家庭学習法」を身につけられるかにかかっているのです。余程特殊なケースでない限り、家にいる時間の方が塾にいる時間より長いはずだからです。要は自分自身の時間の使い方が下手だと実力は身に付かないものなのです。

その意味でうちの塾に限らず、塾に通うすべての生徒に忠告しておきます。

塾（先生）を信用することは大切ですが、頼り切ってしまうてはいけません。あくまでも自分自身の意志で自分のやるべき事を決め、実行することです。つまり、塾は利用するものであって、頼るものではないと心得ましょう。

塾講師が塾の限界を自ら口にするのはおかしい事と思われるかもしれませんが、私は「意志なき者に未来はひらけない。」と常々思っていますので、塾生ひとりひとりにとってよい道を自らの足で歩んで欲しいと願えば願うほど、己を失わないで欲しいと思うのです。

このことは機会ある毎に塾生や保護者の方に話してきたことですが、最近私自身も専門家のお世話になる機会を持つようになりました。むろん私の場合、誰に何と言われようと「我思う、故に生あり」の精神で専門家を利用して日々過ごしていますが。

さて、中学生は今月、中間テストがあります。どの学年にとっても最初のテストですから、それに対する取り組みがまさに試されることとなります。